

取組の名称		「プレフォレスト」による緑地の創出と地域の生態系への貢献	
活動主体（団体名）		東京建物 株式会社	
活動主体（団体名）（フリガナ）		トウキョウタテモノ カブシキガイシャ	
取組の内容 （自由記述）	①概要	大手町タワーの敷地面積の約3分の1に相当する約3,600㎡の緑地である「大手町の森」を2013年に整備した。整備手法として、千葉県君津市内の森で約3年間をかけて実際に木々や植物を育成し、設計から管理方針までを検証する「プレフォレスト」という手法をとり、建物の竣工にあわせて土壌や植物を移植した。	
	②取組内容を確認できるURL （または資料添付）	https://the-otemachi-tower.com/otemachi-forest/project https://the-otemachi-tower.com/otemachi-forest/event	
	③実施時期、頻度	通年	
	④活動場所（所在地）	千代田区	
	⑤活動の規模（参加者数）	6人	
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※		
	2023年6月1日	2023年8月2日	
対応する社会課題 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input type="checkbox"/> 子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート） <input checked="" type="checkbox"/> 都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現） <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成） <input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減） <input checked="" type="checkbox"/> 地域振興（東京全体の生産性、魅力向上） <input checked="" type="checkbox"/> 観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上） <input type="checkbox"/> 農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換） <input checked="" type="checkbox"/> 緑や水辺を生かした空間の創出／自然保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）	
活用している生態系の機能 （該当する項目にチェック／複数選択可）		<input type="checkbox"/> 供給サービス（日々の暮らしに必要な資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など） <input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（二酸化炭素の吸収） <input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和） <input type="checkbox"/> 調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下） <input checked="" type="checkbox"/> 調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR） <input type="checkbox"/> 調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み） <input type="checkbox"/> 調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加） <input checked="" type="checkbox"/> 文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど） <input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（生息・生育環境の提供） <input checked="" type="checkbox"/> 基盤サービス（光合成による酸素の生成） <input type="checkbox"/> 基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）	
貢献の内容 （自由記述）	①人間の幸福に対して	木々が織りなす緑のシェードが直射日光を遮ることはもちろん、約3,600㎡もの自然の森が持つ木々の蒸散作用や土壌の保水力によりクールスポットを形成した。開発後は敷地内で1.7℃、周辺敷地でも0.3℃の平均気温の低下が観測された。 屋根や人工地盤への降雨を植栽の灌水に使用し、水の循環利用を行っているほか、人工地盤上の土は雨水の一次貯留施設として、ゲリラ豪雨時の敷地外流出防止に寄与している。各種イベントも開催し、まちの賑わいづくりにも貢献している。	
	②生物多様性に対して	都心において最も豊かな生態系を育む「皇居」からほど近い距離に「自然の森」を作ることで、様々な生き物が行き交う移動拠点ともなり、都市の生態系を充実させている。 森に植えた木々は、遺伝的かく乱に配慮するため、関東近郊の山に自生する植物を用いた。昆虫は129種を確認し、レッドリストに記載のトンボも見られた。鳥類はハヤブサなど13種類確認した。	